

## 2. 用語改善の方向性のイメージ

### <基本の方針>

受け手側が容易に理解し、危険を実感し、結果として適切な行動・判断につながる用語へ改善。  
その際、聞いてわかること、あまり長くない用語となることが望ましい。

### 現 状

### 改善の方向

#### 用語

- ・アラーム情報らしいことはわかるが、状況がイメージできない用語
  - ・状況がイメージできたとしても、危険のレベルがわからない用語
- 例：危険水位、警戒水位、特別警戒水位等

- ・行動・状況を示す語句で構成された用語へ改善
  - ・危険のレベルがわかるように用語を再編
- 例：警戒水位 避難準備水位  
例：A B C等のレベルが明確な語句を使用

- ・一般社会で昔は使われていたが、現在は一般的には使われていない用語
- 例：堤内・堤外など

- 案1) 一般に使用されている用語へ改善  
例：堤内 川の外側、堤外 川の内側
- 案2) 用語の成立経緯等を勘案し、解説を用意することで対応

- ・書いたものを見ると理解できるが、聞いただけではわかりにくい用語
- 例：破堤、洗掘、漏水など

- ・耳で聞いてわかりやすい用語へ改善
- 例：破堤 欠(決)壊、漏水 水漏れ

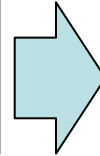
- ・施設整備、管理の用語で一般に使われておらず、意味がわからない用語
- 例：計画高水位、余裕高など

- ・無理に変更せず解説を用意する、極力用いない
- 例：計画高水位は防災情報中で用いない

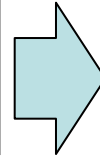
- ・そのまま現在の用語を普及
- 適切な改善用語がない、用語が冗長になる場合等

## 用語の使い方、表現方法

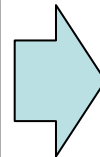
- ・ 河川特有の用語であり、一般社会では意味が通用しない用語  
例：右岸・左岸、堤内・堤外等



- ・ 表現方法を工夫することでよりわかりやすくなる用語  
例：水位の表現方法など



- ・ 用語を用いるタイミングが不明確で受け手側が理解しにくい用語  
例：河川洪水警報、洪水注意報など



- ・ 用語の使い方、表現方法の改善
  - 1) 地名や方角などの言い方で工夫  
例：右岸、左岸 南側、市街地側  
堤内、堤外 川の市街地側、川の水側  
危険水位 地区の危険水位
  - 2) 水位を橋等の構造物からの差で表現  
例：橋の桁下まで m、堤防高まで m)

- ・ 情報の発令基準の明確化